

妊婦さん、子育て中のママへ

pregnant woman & mama

安心して治療を受けていただくために……

あなたのおしりは、大丈夫ですか？
こんな症状ありませんか？



チクバ外科病院は、肛門疾患の専門病院です。

専門の医師が診療を行っています。

【理念】

当院は大腸肛門領域の疾患を中心にした消化器専門病院として地域の医療に貢献いたします。



妊産婦さんに良くある症状

一番の原因は、頑固な便秘です。

今まで便秘症状がなかった人も妊娠や出産がきっかけとなり便秘になることがあります。もともと便秘症の人はさらに注意が必要です。

原因は、色々ありますが、妊娠中に多量に分泌される黄体ホルモンが腸の働きを弱めてしまう場合や、赤ちゃんと子宮が大きくなることで、腸を圧迫して腸が狭まって便がたまったり、排便反射が鈍くなってしまうことが考えられます。

また、同じ姿勢を続けるなどしておしり周辺の血行が悪くなったり、便秘でいきんだりすることが痔の一因でもあります。特に妊娠中の女性は、大きくなった子宮が静脈を圧迫するうえ、ホルモンバランスの変化で便秘がちとなり、肛門周囲にうっ血が起こりやすい状態になっています。出産時に強くいきむことも負担になり、妊娠、出産をきっかけに痔を患う女性は少なくありません。

痔の症状がひどくても、実際には塗り薬だけで治るケースが多く、手術になる患者さんは2割ほどです。

手術の際は一週間程度の入院が安心ですが、経過によっては一泊で退院できることもあります。当院では、病室は全て個室で、乳児を連れての入院も可能です。授乳中の方には、栄養士が授乳の冷凍保存もしてくれるなど、産後すぐでも安心して入院手術が受けられます。

女性ならではの要因も多い、
おしりの疾患。
薬で治るケースも多いので、
悩むよりまずは受診を!

痔は、必ず手術しないといけないものではなく、
手術はあくまでも苦痛の解消が目的です。
ひとりで悩まず、気軽にご相談下さい。

治療方法の選択について

1

お薬治療

まずは、症状を見せていただき重度でないかぎり、お薬の治療からスタートします。痔=即手術ではないということをご理解下さい。

2

日帰り、短期入院手術

薬で完治しない場合はご本人と相談の上、手術方法を決定します。比較的短期間で済むものもあります。

3

入院手術

しっかり治したい、苦痛を早く解消したい場合は、手術の選択となります。

痔にならないための対応

- 水分をしっかりとる（寝起きに冷たい水がおすすめです）
- 適度な運動をする
- 便意を感じたら我慢しない
- 産科で下剤などのお薬をもらいましょう

おしりの症状は、こんなにたくさんあります

- いぼ痔（内痔核・外痔核）
- きれ痔（裂肛）
- あな痔（肛門周囲膿瘍・痔瘻）
- 肛門周囲皮膚炎

簡単な治療でスッキリすることも
多くあります。

気軽な気持ちで、早めの受診を
おすすめしています。



「いぼ痔」ってなあに？

～内痔核～ 編



理事長
竹馬
彰

肛門の病気にNo.1は何と言っても「いぼ痔」です。いぼ痔には大きく分けて「内痔核」と「外痔核」があります。今回は内痔核についてお話しします。

内痔核は直腸と肛門の境にできる静脈のこぶです。(これを静脈瘤といいます)。

主な症状は「出血」「脱出」「痛み」「腫れ」です。

内痔核は排便の時間が長い人、長時間同じ姿勢をとることが多い人、重いものを持ち上げる作業などをよくする人におこりやすいのです。



最初はあまり症状は出ませんが、次第に大きくなって出血したり、排便時に肛門の外に脱出てきたりします。脱出もひどくなってくると排便のたびどころか、歩くだけで出てきたりします。こうなってくると気になるし、気持ち悪いし、……でチクバ外科の門をたたくこととなります。

脱出の具合で第I度から第IV度までに分類します。

第I度はまだ静脈瘤ができただけで、痛みや脱出はありません。排便のときに痛みがなくて出血するだけならこの段階のいぼ痔が考えられます。

第II度は、静脈のこぶが大きくなってきて、そのこぶを支えている「スジ」が少し緩んできた状態です。この状態だと、きばったときに少し脱出するのがわかる場合もありますが、病院にこられる場合の主な症状は出血です。痛みはないことが多いです。出血が多いときには治療が必要です。

1週間以上出血が続く場合には是非診察を

受けてください。いぼ痔という思い込みは禁物ですよ。

第III度はもっと静脈瘤が大きくなってきて、排便のたびに肛門の外に脱出てきます。排便後におしりを触るとやわらかい「肉の塊」が肛門の外に出てきている、こんな感じです。こうなってくると脱出時に軽い痛みを伴ってくる場合も多くなってきます。

日常生活も次第に不便になってきます。「そろそろ治療しないとイケないかな」と思う方が増えてくるのもこの状態です。手術をするのが一番確実な治療法です。

さて、第IV度。これは常に内痔核が肛門の外に出ていて指で肛門内に入れようとしても入らない、もしくははすぐ出てしまう状態です。この場合には外痔核を伴っていることが多いのですが、おしりを患ってらっしゃる患者さんにそんなこと関係ありませんよね。

でも、常に下着は粘液で汚れるし、おしりの周りは湿っているし、多分相当日常生活で困っているはずですよ。こうなったらあきらめましょう。

手術をしたらすっきりします。でも、手術するのが不安だし、怖いからこうなるまで病院に行けなかったんですね。でも大丈夫。専門医にお任せください。

〈内痔核症状の一覧〉

	脱出	出血	痛み
第I度	なし	少し	なし
第II度	きばった時のみ出る	あり	なし
第III度	排便後「肉の塊」を触れる	あり	あり
第IV度	出っぱなし	あり	あり

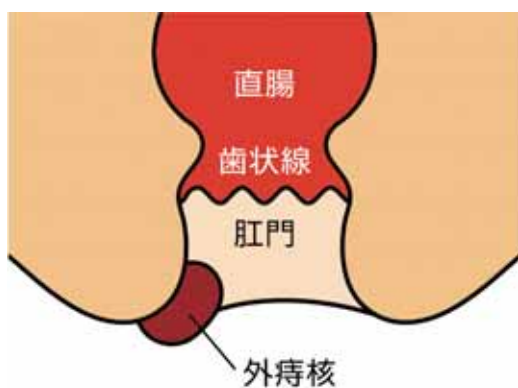
「いぼ痔」ってなあに？

～外痔核～ 編

ヒトのおしりは四足動物とちがって心臓よりも低い位置にあるので、うっ血しやすくなっています。お尻のうっ血が原因で血管の一部がふくれ上がる痔核は、ヒト特有の疾患ともいえます。直立歩行を始めた人類の宿命ともいえる病気なのです。

痔核は誰にでもあり肛門を閉じるときのクッションの役割をしていると考えられています。ところがこれを支えている組織が弱くなると、クッション部分が大きくなって「病気」の仲間入りをするというわけです。そうヒトはみんな痔主なのです。

直腸（粘膜）と肛門（皮膚）の境目を歯状線といいます。その歯状線の外側にできる痔核が外痔核、このうち肛門皮膚下に血豆ができるものを血栓性外痔核と呼びます。



外痔核はそれまで肛門が腫れたことのない人が「ある日下痢や便秘を繰り返したあとに突然肛門の周りに固いしこりができて痛くてたまらない」というのが典型的です。小さなものでは軽い痛みですが、大きなものになると肛門の半周がしこりとなり椅子に座るのも大変です。さらに放置すると破裂して下着が真っ赤になるような出血をすることもあります。



内視鏡センター長
名誉院長 瀧上隆夫

【外痔核の治療】

～軽症の外痔核の場合～

ほとんど痛みもなく肛門周囲のしこりだけが症状の時は、手術はまず必要ありません。日常生活に注意をして坐薬や軟膏を塗っていれば徐々に腫れが引いてきます。

～中等症の外痔核の場合～

しこりがあってもあまり痛みがなく出血などの症状が乏しい時は、まずは軽症と同じような治療を試みます。数日たっても腫れや痛みがなかなか引かない時は局所麻酔でしこりの頂部を切開し、なかの血栓だけを取り除きます。日帰り手術で充分です。

～重症の外痔核～

しこりが非常に大きい時、痛みが非常に強い時は手術が必要です。大きな外痔核が吸収されるのは時間がかかりますし局所麻酔だけで血栓だけを取る方法では術後に肛門周囲の皮膚がたわんで耳たぶのようになり病気が治っても肛門周囲が不潔になりやすく、余病を招く恐れがあるからです。

「こんなことならもっと早く病院に来ればよかった…」とおっしゃる患者さんが多いのは事実。もっと皆さんお尻に愛情を注いであげてください。最近、自分のお尻は元気がないな～と感じたらぜひ肛門科の門をたたいてみて下さい。お待ちしております。

「きれ痔」ってなあに？

裂肛編



副院長
嶋村廣視

ひとくちに「痔」と申しますが、「痔」には、「いぼ痔（痔核）」、「きれ痔（裂肛）」、「あな痔（痔瘻）」の3つがあり、それぞれ病態や治療が異なります。

今回は、「きれ痔」=【裂肛】についてお話しします。

「きれ痔」とは読んで字の如く、“肛門が切れること”です。症状としては、おしりの痛みや出血が主なものです。

【切れ痔のこと】

肛門は肛門縁（肛門の出口）から約1.5cmほどの表面が皮膚に似た上皮（肛門上皮）で覆われており、この部分は通常の粘膜より血流が悪く、また、便と直接接する所であるため、しばしば切れてしまいます。

切れてすぐであれば軟膏や排便の調整で比較的簡単に治りますが、元来、便秘や下痢など排便習慣に異常のある人は“傷”が癒える前に再び傷つけられてしまい、症状が長引くこととなります。これを繰り返していると“傷”の外側に突起が出来たり（みはりいぼ）、内側にふくらみ（肛門ポリープ）が出来てきます。この状態を「慢性裂肛」と呼びます。

さらに、切れ痔がこじれると

①肛門潰瘍：

“傷”が深くなって治らない状態。痛みが排便後長時間続く。

②痔瘻：

“傷”から“ばい菌”が進入して感染を起し、トンネルが出来た状態。普通の痔瘻より浅い所出来る。

③肛門狭窄：

切れ痔を繰り返し、瘢痕のため肛門が狭くなり、便が出にくくなった状態。ひどくなれば鉛筆も通らないくらいの狭さになることもある。これらの治療には手術が必要になります。

【治療について】

治療は、まず保存的治療を行います。（これが基本です。）

①保存的治療：

生活習慣の改善を図りつつ、軟膏や内服薬を用います。

②手術療法：

それぞれの病態に応じた手術を選択します。
肛門潰瘍（+肛門ポリープ）
潰瘍切除（+ポリープ切除）
内括約筋側方切開術（LSIS）
痔瘻 開放術式（lay open）
肛門狭窄 皮膚弁移動術（SSG）

【日常生活で気をつけること】

①便秘・下痢に注意

硬くて太い便を無理矢理出せばおしりが裂けます。かといって軟らかい便が出ていても下痢状態で何回もトイレに通ってもまた切れてしまいます。

症状が強いときは下痢（軟便剤）や下痢止め（整腸剤）で調整することもあります。

“ほどほど”が肝心です。

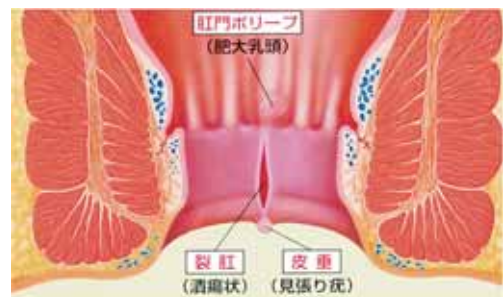
②おしりを冷やさない 毎日お風呂に入る

おしりが冷えると血行が悪くなり、おしりの筋肉（肛門括約筋）の緊張が強くなります。

正常な肛門は排便の時には自然に緊張がゆるんで便を出しやすい状態になります。ゆるんでいない状態で便を出せばやはり切れてしまいます。

また、血行が悪いと切れ痔が出来てしまったあとの治りも悪く、慢性化しやすくなります。

肛門の痛み、出血といってもその原因は様々です。症状が続くときは早めに専門医を受診することをお勧めします。



「あな痔」ってなあに？

『肛門周囲膿瘍』『痔瘻』 のことをいいます。



外科部長
根津真司

肛門周囲膿瘍とは

多くは、肛門の近くにある肛門小窩(粘液を分泌する肛門腺が開く所)から細菌が侵入して炎症を起こし、肛門周囲に膿瘍(ウミのたまり)をつくる病気で痔瘻の前段階と考えられます。

痔ろうとは

肛門周囲膿瘍がふくれて広がって、肛門周囲の皮膚や直腸に自然に破れたり、排膿(ウミを出す)のための切開のあとで、肛門と肛門周囲の皮膚や直腸との間に瘻管(トンネル)を作った状態です。

図1 原因と症状

直腸内の細菌
(主として大腸菌) 歯状線周辺の肛門小窩から肛門腺内に細菌が進入



肛門腺が化膿し、内・外肛門括約筋の間に膿を持つ(肛門周囲膿瘍)



膿がはけ口を求めて、肛門周辺に破れて出る(痔瘻)
肛門周辺が腫れぼったく痛む。時々熱も出る。膿様のものが下着に付着。



型分類

- I. 皮下または粘膜痔瘻
肛門の粘膜下および皮下の浅い部位にできる
- II. 内・外括約筋間痔瘻
内括約筋と外括約筋の間にできる
肛門側にできるものと直腸側にできるものもので最も頻度の多いタイプ
- III. 肛門挙筋下痔瘻
肛門挙筋の下で坐骨と直腸の間にできるもの
- IV. 肛門挙筋上痔瘻
肛門挙筋の上にあるもので稀

診断について

問診、視診、直腸肛門視診を行います。深部に及んでいたり、複雑な場合にはCT、MRI、超音波、ろう孔造影などの画像診断や血液検査を行います。

治療について

原則的にウミを外に出す切開排膿処置で、特に浅部の病変では切開排膿だけで炎症が落ち着き、根治手術が不要なこともあります。

一時的に炎症が落ち着いても再発、再燃を繰り返す場合には根治手術が必要になります。

手術療法

トンネルのできた場所や形によってケースバイケースです。基本的には痔瘻のトンネル(瘻管)の入り口から肛門側の組織を完全に開放、切除する方法です。

この方法では、瘻管の深い部位によっては、肛門括約筋が傷ついて、痔瘻が治ったあとで、肛門が引きつれたり締りが悪くなってしまうことがあります。

そのため、痔瘻のタイプによっては、括約筋をなるべく傷つけないようにしながら、瘻管を切除する括約筋温存手術を行います。

簡単な痔瘻を切りすぎないように、また、中途半端な手術で痔ろうを再発させないような専門的技術が要求されます。

予防法

特別なものではありませんが、肛門を清潔に保ち、アルコールの多飲や暴飲、暴食を避け、便通を整えるように普段から心がけたいものです。

治療を怠ると、複雑な痔瘻になって治療に難渋したり、稀ですが、敗血症になって命に関わる場合もあります。

特に、糖尿病など基礎疾患がある人は注意が必要です。

肛門の違和感、発熱など認めたら早めに専門医を受診されることをお勧めいたします。

痔瘻の奥に、直腸癌やクローン病(原因不明の炎症性腸疾患)などが隠れていることもあるからです。

「肛門周囲皮膚炎」

かぶれ・ただれ・かゆみ



原因として考えられることは

- 痔のために肛門がじくじくして皮膚がただれた
- カンジタ症など細菌が原因の炎症
- 下痢や便秘で肛門を刺激してしまう
- 治りにくい皮膚炎で皮膚が肥厚しさらに治りにくくなる
- ステロイド剤の入った坐材・軟膏を長期に使用している

対応

- 肛門を清潔にする
- 入浴やウォシュレットで洗う
- 石鹸でゴシゴシこすとかえってかゆくなります
- 早めの受診で、症状に合ったお薬を使いましょう

おしりの健康7カ条

1. 毎日お風呂に入る

お風呂に入るとからだがり温まり血行がよくなります。また清潔にもなります。お風呂は一番の予防・治療法です。



2. おしりをきれいに

おしりを汚しておくとも細菌が繁殖し、かゆくなったり炎症をおこします。排便のあとは、できるだけきれいにしましょう。

3. 便秘・下痢に注意

便秘をすると硬い便がたまって、肛門を傷つけることがあります。また排便のとき強くいきむため、肛門付近のうっ血をきたします。下痢は肛門を刺激し不潔にもなり、細菌感染をおこしやすくなります。

4. トイレで強くいきまない

排便のとき強くいきむと、肛門のうっ血や出血をきたすことがあります。また力仕事や過激なスポーツなども、急に肛門の負担がかかるのでよくありません。

5. 腰を冷やさない

腰を冷やすと肛門の血行が悪くなるのでよくありません。

6. 座りっぱなしはよくない

座りっぱなしや立ちっぱなししていると、肛門のうっ血をきたすことがあります。時々軽く体操をして、血行をよきましょう。長時間のドライブは避けましょう。



7. 思い込みは禁物

肛門の病気は恥ずかしがらずに早めに診察を受けましょう。がんを痔と思い込んだり、簡単に治せる痔を長年悩んでいる方がよくおられます。



妊産婦さん

「おしりの相談室」



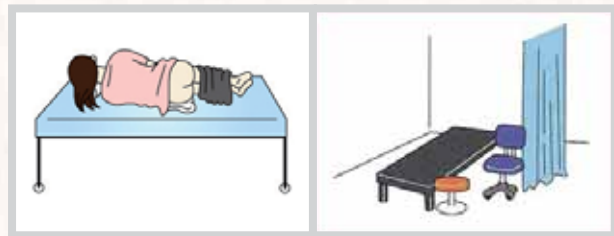
産前編

Q 手術はできますか？

A 産後の腫れや痛みの事を考えて「この際ちゃんと治しておきたい」と希望される患者さんは手術可能です。妊娠中でも手術は安全にできますし、胎児に悪影響を及ぼすような薬は使わなくても治療できます。妊娠の時期により対応は異なりますので担当医に相談のうえ決定します。赤ちゃんの安定期に、手術を受ける方が多いです。

Q 妊娠中のおしりの診察方法は？

A 診察時の体位は横向きに寝ていただきます。「左側臥位」
診察ベッドの周りはカーテンで仕切られており、露出部位はタオルで少なくするなど、プライバシーが守られる配慮をしております。



Q どんなお薬が使えますか？飲み薬は使えますか？

A 症状が続いたり、痛みが強いなどやむを得ず薬を使用する場合は、産科医や薬剤師に相談し慎重に使用することをおすすめしています。

Q 早めに治療したほうがいいですか？ 出産を待ってからしたほうがいいですか？

A 妊娠・出産時の一次的な発症は、自然に治ることもあります。しかし悪化して、症状を抱えながら出産や育児をするのはつらいものです。妊娠中の治療に不安を持つ方も多いと思いますが、妊娠初期を除けば治療はいつでも可能です。

Q 薬だけで治療できますか？

A 痔になったからといって、必ず手術ということはありません。痛みと腫れの経過を見た上で治療方法を相談します。まずは、軟膏などを使用して対症療法を行うこともできます。

Q 痔の手術方法は？

A 痔の種類や程度によって麻酔方法(低位腰椎麻酔、局所麻酔など)や外来日帰り手術、短期、長期入院を相談し決定します。手術の体位もシムス体位といって横向きでおしりだけを上向きにした(胎児に強い圧迫がかからないように)配慮を行い、手術時間も数分~20分位で終わります。

Q 手術費用はいくらですか？

A 【3割負担】 ● 外来肛門手術：6,000円~8,000円
● 入院手術：[4日] 60,000円~70,000円 [7日] 80,000円~90,000円

産 後 編

Q 産婦人科に入院中です。手術を受けに行けますか？

A まず、産婦人科の医師に相談して下さい。そして専門医へ紹介してもらって下さい。

Q 授乳中です。赤ちゃんと一緒に入院できますか？

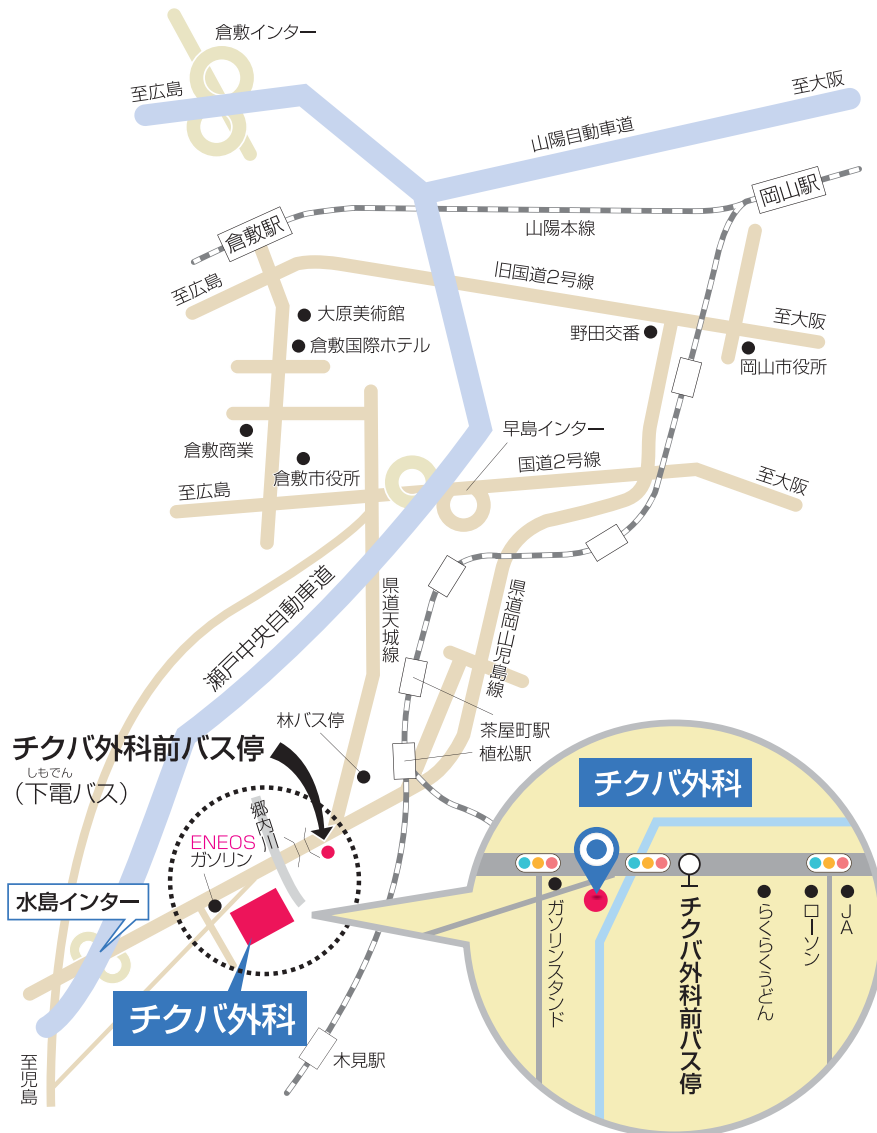
A 全室個室になっていますので一緒に入院していただく事ができます。

Q 授乳は、手術後すぐにできますか？

A 手術前に授乳をしていただきます。麻酔の種類によりますができます。麻酔は直接血液に入らないので胎児や母乳への影響は無いといってよく、また薬は成分や授乳時間を考慮すれば服用できます。

Q お産の後はどうしたらいいのでしょうか？

A お産後、お尻が腫れて痛むことがあります。分娩時の腹圧のためと思われます。お気軽に受診してください。



高速道路から

瀬戸中央道の水島インターで「玉野岡山方面」出口から一般道へ。二つ目の信号交差点「郷内」を右折し、すぐ次の信号を左折（水島インターより約3分）。



一般道から

県道児島線（21号線）を児島方面へ向かい、水島インター手前のガソリンスタンド（ENEOS）のY字路左側。



JRでは

JR瀬戸大橋線の茶屋町駅で下車、タクシーで約10分。



バスでは

倉敷駅前バスステーション6番ホームから下電バス「JR児島駅行き（天城線）」で約40分。「チクバ外科前」バス停にて下車、徒歩約1分。

お気軽にお問い合わせください

☎ 086-485-1755

（地域医療連携室）

Chikuba Hospital for Gastrointestinal and Colorectal Surgery

チクバ外科
胃腸科・肛門科病院

〒710-0142 岡山県倉敷市林2217
TEL 086-485-1755 / FAX 086-485-3500
<http://www.chikubageka.jp>

診療受付時間

受付時間	午前 8:30～11:30 午後 13:00～17:00
休診日	木曜日・日曜日・祝祭日